

連携医院のご紹介

今回は「着実に！しかし積極的に！かつ楽しく！」をモットーに診療をされている、西区南観音の「ありしげ耳鼻咽喉科」の有重 秀三院長にお話を伺いました。



有重院長とスタッフ

ありしげ耳鼻咽喉科

〒733-0035
広島市西区南観音2-7-21
平野ビル2F
電話/082-503-3311
院長/有重 秀三
診療科目/耳鼻咽喉科



平野ビルの2階にあります

○いつ開業されましたか。

最後の勤務先が三菱病院だったこともあり、引き続き、観音地区の地域医療に携わりたいと思い、平成18年10月に開業しました。

○開業されてから今までのことを教えてください。

勤務医のときは、患者さんの診療のことだけを考えればよかったのですが、開業してからは、医院の経営のことや雑用も非常に多く、最初は戸惑いました。幸いスタッフのお陰で、どうか今日に至っております。

○力を入れている事などを教えてください。

耳鼻科全般ですが、当院はビルの2階にあり、1階には小児科があるということもあって、子どもの患者さんが多いです。子どもは、診察の際、恐怖心から泣いたり暴れたりしますので、しっかり目を見て接するようにし、徐々に受け入れてもらえるように努めています。



明るい陽射しが差し込む待合室

○毎日の診療で大切にされている事や、やりがいは？

患者さんがこういった症状で来られて何を求めているかを正しく判断するために患者さんの話をしっかり聞くことです。そしてその患者さんにとって今何が最善の治療なのかを考え、症例によっては、その治療が受けられる病院を紹介しています。患者さんの症状が改善することが1番のやりがいになっています。また子どもは吸引時、泣いたり暴れたりしますが、吸引することによって楽になることがわかると、じっとしてくれるようになり、そういう様子を見た時にもやりがいを感じます。

○県病院はどんなところですか。県病院に一言。

いつも患者さんを紹介させてもらっています。各科にスペシャリストの先生方がおられ、とても助かっています。緊急を要する患者さんにも迅速に対応くださり、耳鼻科や小児感覚器科の先生には特にお世話になっています。

【取材後記】

院長先生、スタッフのみなさんの雰囲気がとても和やかでした。待合室には手作りの、可愛い折り紙の作品が飾っており、温か味がある待合室で、子どもさんもしリラックスできる空間でした。

もみじ



県立広島病院 ☎(082)254-1818(代)
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

第154号
2021.12.1
発行



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

泌尿器科



県立広島病院に

ダヴィンチがやってきた!



泌尿器科 主任部長
梶原 充

◆内視鏡下手術支援ロボット

わが県立広島病院にも、2021年9月、ついに世界的に普及している手術支援ロボットである「ダヴィンチ・システム」がやってきました。ダヴィンチ・システム(Intuitive Surgical社製da Vinci Surgical System)とは、内視鏡手術(腹腔鏡・胸腔鏡手術)を支援する、最新鋭の内視鏡下手術支援ロボットです。ロボット手術といっても、鉄腕アトムやスターウォーズのC-3POのような人工知能(AI)を持ったヒト型ロボットが自律的に動いて手術をする訳ではありません。ダヴィンチには4本の「腕=アーム」があり、患者さんのおなかや胸にあけた小さな孔(あな)に、手術器具を取り付けたロボットの複数のアームと、内視鏡カメラを挿入し、医師がサージョンコンソールと呼ばれるアニメに出てくるガンダムのコックピットのような操作ボックスの中で鮮明な3D(3次元)画像を見ながら操作して手術をします(マニピュレーター型ロボット)。今回、当院が導入したのは、従来のダヴィンチから様々な改良が加えられた、最新バージョンの「ダヴィンチXi」です。



ダヴィンチ



ダヴィンチXiの
サージョンコンソール

漫画好きの方なら、あのゴルゴ13がダヴィンチ・システム(原作ではレオナルドと呼称)を使って、自分で自分のケガの手術をしたり(術者、患者ともにゴルゴ13)、ダヴィンチ・システムのもつ遠隔操作機能を利用して、自分の本職であるあの「仕事」にも活用したことをご存じでしょう。

参考文献：「ゴルゴ13」第191巻1万キロの狙撃(2016年)



ロボットの複数のアーム

多種のインストルメント(アームの先端)

人間の手による自然な動作範囲よりも、広い動作範囲を得られるように設計されており、精緻な低侵襲性手術における縫合、切開、組織操作等を迅速かつ正確にサポートします。

医師の手の動きをより細かく精密な動きに変換します

次ページに続きます→

県立広島病院からのお知らせ

12月のがんサロン

- 開催日 令和3年 12月22日(水)
- 時間 14:00~15:00
- 場所 新東棟2階 総合研修室
- テーマ がん治療にかかるお金や生活・仕事の困りごと
- 講師 がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー/榎賀 丈士氏
広島県社会保険労務士会副会長/積河内 弘樹氏
- 対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族
当院での受診歴は問いません
- 問合せ先 がん相談支援センター
TEL 082-256-3561 (定元)
※感染状況によりオンラインのみの場合あり

申込専用 hphchiikirenkei@pref.hiroshima.lg.jp

クリスマスコンサート

12月24日 金 14:00~ 中央棟1階 中央玄関ホール
どなたでもご自由にご鑑賞いただけます

年末年始 休診のお知らせ

2021 12月				2022 1月			
28	29	30	31	1	2	3	4
火	水	木	金	祝	日	月	火
平常通り	休			診	平常通り		平常通り

年末年始の外来診療につきまして、次の通りとさせていただきます。皆様には大変ご不便をおかけしますが、よろしくお願ひ申し上げます。

◆従来の内視鏡手術との相違点

従来の内視鏡手術は、手術器具を直線的にしか動かさないため細かい作業が困難で、術野を映し出す内視鏡カメラは重く、長時間、手で持って手術をするため手振れが起こるなどの短所がありました。これらの短所を著しく改善したのがロボット支援手術です。

◆ダヴィンチXiでの内視鏡手術を受けられる患者さんのメリット

ダヴィンチ手術には、内視鏡手術と同様に切開部が小さい以外に、出血量も最小限に抑えられ、繊細な手術が可能であることから、がんの根治性を高め、機能の温存も可能となり、術後の早期回復や入院期間の短縮になるなど、手術を受けられる患者さんにとってさまざまなメリットがあります。

また術者にとっても、鮮明な3D (3次元) 画像で術野を観察でき、手ぶれがないため精密な操作が可能で、アームの先端部分には手首や指のように曲がる関節があり、かつその動作範囲は人間以上であるため繊細な作業が可能となり、さらに、普段からVR (仮想現実) シミュレーターという機能で手術の反復練習や若手医師への教育が可能となるなど、従来の内視鏡手術と比べ、さまざまなメリットがあります。

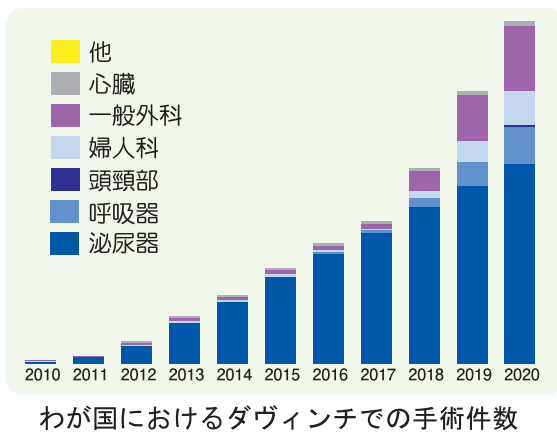
◆保険収載された術式と将来

米国では、前立腺がん摘出術のほぼ100%がダヴィンチ手術であり、わが国においても90%以上がダヴィンチ手術です。新しく認可された術式においても、より短い期間で同様な結果になることが予想されます。実際、欧米ではロボット支援手術が最も行われているのは婦人科で、順に外科、泌尿器科であり、わが国でも外科、婦人科が増加しています。

このように「泌尿器科でのみ行われる特別な手術」が、今日では消化器外科、呼吸器外科、婦人科、心血管外科など「多くの科で行われる手術」になりつつあります。さらに対象となる術式は増え、頭頸部外科領域、肝胆膵領域、耳鼻咽喉科、小児外科などにおいても保険収載になることが期待されています。

ダヴィンチXiのメリット

- 傷跡が小さく、瘢痕(傷跡)が、殆ど残らない
- 術後の回復が早く、入院期間が短い
- 手術中の出血量が少ない
- 麻薬性鎮痛薬の必要性が少ない
- がんの根治性が高まる
- 機能を温存できる
- QOL(生活の質)の向上



脳心臓血管カンファレンス

脳心臓血管センター長 / 上田 浩徳

抗凝固薬併用虚血性心疾患患者への治療の現状

【循環器内科 / 光波 直也】

経皮的冠動脈形成術 (Percutaneous Coronary Intervention: PCI) 施行時には血栓症の回避のため、抗血小板薬2剤併用療法 (Dual Anti-Platelet Therapy: DAPT, アスピリン+チエノピリジン系抗血小板薬) がステント留置後の標準治療となっていますが「2020年日本循環器学会ガイドラインフォーカスアップデート版冠動脈疾患患者における抗血栓療法」において、PCI施行時に考慮すべき高出血リスク (日本版 High Bleeding Risk: HBR) 因子が示されました。特に重要な因子として①低体重・フレイル②心不全③貧血④末梢血管疾患⑤慢性腎臓病 (透析) の併存が挙げられています。さらにその他いくつかの因子が示されていますが、併用薬剤として抗凝固薬・抗炎症剤・ステロイドを服用中である場合には注意が必要とされています。一方で、冠動脈ステントの改良が進み、HBR患者さんにおいてDAPT期間の短縮によ

ても、冠動脈血栓イベント発症は増加せず、出血イベントは有意に減少したことが報告されています。このガイドラインでは、経口抗凝固薬 (Oral Anti-coagulant: OAC) 服用中のHBR患者さんではDAPT期間は入院中のみとし、その後1年まではOAC+抗血小板薬単剤とし、1年以降はOACのみ服用とされています。OAC服用をしていないHBR患者さんでは1~3ヶ月DAPT期間とし、その後はOAC+抗血小板薬単剤とすることが推奨されています。また、冠動脈血栓リスク因子に関しても示されており、全身的及び冠動脈局所の因子によって、血栓リスクが高いと考えられる症例ではDAPT期間は3~12ヶ月が推奨されています。以上から、DAPT期間に関しては、出血リスクと冠動脈血栓イベントリスクをPCI施行医と相談しながら決定することが実臨床では現実的と考えられます。



外科医の独り言...no.122

— 顔認証 —

ワクチンの効果で新型コロナ感染症拡大の勢いは弱まり、この原稿を書いている段階で新たな変異株の流行は報告されていません。ですが、気が緩んでしまうと感染の再拡大が起こりそうで、それこそ恐る恐る制限が解除されていくのだと思います。でも完全にコロナ以前の状態に戻るといえるのではないかと覚悟しておいた方が良さそうです。煩わしいマスク着用はいつまで続くのでしょうか？マスク着用慣れている日本人は良いとしても、その習慣のない欧米で感染が再拡大しているのも気になります。おそらく屋内や人混みでのマスク着用は今までどおり必要であり、マスク生活から完全に解放されるのはまだまだ先のようなのです。

マスク生活で一番困るのが「顔認証」です。といってもスマホやAIの話ではありません。昔から私は、顔と名前が一致しない病気で悩んでいました。最近は加齢とともに段々ひどくなっているようです。顔と名前の紐づけが上手くできないので、顔は覚えているけど名前が思い出せないのです。一度会っただけで顔と名前を覚えてしまうといううらやましい特技を持った方が私の周りにもいますが、会った瞬間に「あっ、〇〇さん」と名前が出ると、呼ばれた方も嬉しくなりますよね。それが昨今のマスク生活で私の顔認証能力が一層低下しています。顔を覚えるも何も、顔の下半分がマスクで隠れているので、よほど目元に特徴がないと覚えられません。そして、若い女性は全部同じに見えるのは私だけでしょうか？特に初対面の人の名前と顔の紐づけが、このコロナ禍で特に難しくなっています。先日、研修医数名とお茶を飲みながら研修医生活についていろいろ話を聞く機会がありました。研修医2年目のA医師 (女性医師) は、外科にもよく顔を出していたのでよく知っていましたが、以前、目元がA医師とよく良く似たB医師

に「Aさんだよ」と誤認したことがあります。実はこの2年間、彼女のマスクを外した顔を一度も見たことがなかったのです。確か彼女が県病院に来たのは2020年4月、この時すでに広島でもコロナ感染者が発生しており、病院でのマスク着用が義務付けられていました。例年は研修医たちとの食事会や飲み会がありましたが、当然禁止されていたので、マスクを外した顔を見る機会がなかったのです。そしてこの茶会で、コーヒーを飲むときにマスクを外した顔、特に鼻と口元を初めて見て「へー、こんな顔をしてたんだ」と新たな発見をした気分を味わうことになりました。決して悪い意味ではございません。本当に新鮮でさわやかな気持ちになれたのです。皆さんも、このコロナ禍で、良く知っているのにマスク姿しか見たことのない人はいませんか？

そしてつい先日の学会で、昔からお世話になっていた大阪在住のB外科医に偶然お会いしました。5年ぶり、もちろんマスクをしておられ、目元しか見えませんでした。すぐにB医師だとわかりました。立ち話をしていると、あれ？今まで気づかなかったのですが、B医師の眉間に三日月の古い傷跡を見つけました。「先生、前からこの傷がありました？」と聞くと「今までどこを見ていたんだ」と怒られる始末でしたが、正確な顔認証ができていないのにすぐにB医師とわかったのは、おそらく全体の雰囲気というか、オーラが出ていたのでしょうか。芸能人がいくらマスクをしてサングラスをかけて帽子をかぶって変装してもすぐにばれてしまうのはオーラがあるからでしょう。オーラがないのも寂しいですが…。森だけでなく林も木まで見ても名前が出てこなければ認知機能の低下？まづい。



かかりつけ医を持ちましょう!

「かかりつけ医」とは、健康に関することを何でも相談でき、必要な医療機関を紹介してくれる身近な生活の場にいる頼りになる医師のことです。

メリット

- ◎患者さんを、よく知っているので対応が早い
- ◎待ち時間が短く、診察に時間をかけられます
- ◎精密検査や入院に適した医療機関への紹介と予約が行えます

